

2023 年度名古屋大学
融合フロンティアフェローシップ
募集要項（第 1 回）

○募集対象年次

博士後期課程	2023 年 4 月入学・進学予定者
医学博士課程	2023 年 4 月博士 2 年次進級予定者

*上記以外の詳細は、4. 申請資格をご参照ください

2022 年 1 月

(2022 年 2 月 8 日訂正)

2023 年度(令和 5 年度)名古屋大学融合フロンティアフェローシップ
募集要項(第 1 回)

1. 趣旨

名古屋大学(以下「本学」という。)は、「融合領域を開拓し、未来の知の創出や社会実装を担い、グローバルに活躍できる博士人材」の育成を目指しています。

「名古屋大学融合フロンティアフェローシップ」(以下「本フェローシップ」という。)は、本学博士課程に進む学生が、博士後期課程 3 年間を通じて、深い学識と卓越した能力を身につけ、その経験で培った様々な力を、博士学位取得後に社会の多様な場で発揮していただきたいという思いのもと作られた、**研究と生活を両面からサポート**する制度です。

この制度を通じて、輩出する博士人材が、我が国の継続的な学術の深化や、次世代の科学技術・イノベーションの創出を担い、活力ある社会の構築に寄与することを期待するものです。

本制度は、文部科学省「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」と名古屋大学により実施されるものです。

2. 申請対象分野(4 分野)

4 分野あります。分野ごとに目的とする育成人材像が異なります。(別表 1 を参照)

I : アジア未来創造分野、II : 情報・AI 分野、III : 量子科学分野、IV : マテリアル分野

留意事項

- ・各分野で申請可能な研究科・専攻が決まっております。(別表 2 をご参照ください。)
- ・申請は最大第 3 志望 まで選択可能です。ただし、第 2 志望以降についても、別表 2 の申請可能な研究科・専攻に適合することを確認してください。

※別表 2 に依り難い場合は、理由を含め、事前に博士課程教育推進機構まで事前に相談してください。

3. 採用予定人数

アジア未来創造分野	13 名程度
情報・AI 分野	13 名程度
量子科学分野	6 名程度
マテリアル分野	7 名程度

※各分野の採用予定人数は目安です。

4. 申請資格

本フェローシップに申請できる者は、次の(1)～(3) いずれにも該当する者（留学生を含む）とします。

○博士後期課程 2023年4月入学進学予定者

○医学博士課程 2023年4月に博士2年次になる者

(1) 在籍条件

本学博士後期課程、医学博士課程に入学進学を希望する者で、2023年4月に博士後期課程に入学進学する（医学博士課程2年次になる）者

(2) 博士後期課程入学時（医学博士課程については2年次になる時）において、以下のいずれにも該当しない者

- ① 所属する大学や企業等から、生活費相当額として十分な水準（240万円／年を基準する。）で、給与・役員報酬等の安定的な収入を得ていると認められる学生
- ② 国費外国人留学生制度による奨学金を受ける留学生
- ③ 母国からの奨学金等の支援を受ける留学生
- ④ 日本学術振興会の特別研究員

(3) 「東海国立大学機構融合フロンティア次世代リサーチャー(2023年度第1回募集)」に応募していない者

留意事項

- ・本事業における支援期間中に、本事業以外からの支援を受ける予定の場合、併給が可能かを当該奨学金等の事務局又は所属する研究科の教務担当に確認してください。
- ・本募集は、フェローシップに係る募集であり、受給するためには、別途、各研究科が実施する入学試験に合格する必要があります。

5. フェローシップ奨励金（以下「奨励金」という）

フェローには、以下の奨励金が支給されます。

(1) 研究専念支援金 月額 18万円

原則毎月末までに、本人の口座に振り込まれます。当所得は、雑所得となりますので、毎年確定申告*の手続きが必要となります。

※：留学生は、租税条約の手続きを行うことにより確定申告が不要になる場合があります。

(2) 研究費 年額 25万円

本学にて研究費を管理いたします。本学の会計手続きに従い、研究計画に沿った支

出を行っていただきます。

※(1)研究専念支援金、(2)研究費ともに、活動の評価により、金額を増額する場合があります。

6. 支給期間

奨励金の支給期間は最大3年間です。(ただし、支給中断・停止要件に該当した場合は、支給期間が短くなる場合があります。)

7. 申請書類

- (1) 名古屋大学融合フロンティアフェローシップ申請書(様式1)
- (2) 研究概要等(様式2)
- (3) 指導教員等評価書(様式3)
- (4) 申請概要説明動画(詳細については別紙「動画作成について」参照のこと)

8. 申請手続(詳細は、別紙の申請方法のマニュアルを参照してください。)

申請は、以下の手順で実施いたします。

- (1) 申請情報の登録(申請情報登録のみ。ここでは申請書の提出は行いません。)

~~申請情報登録期間 2022年1月27日(木)～2022年2月10日(木)13時~~
※締切りを延長しました。

申請情報登録期間 2022年1月27日(木)～2022年2月17日(木)13時

・以下の手続きで申請情報を登録してください。

- ①申請情報登録フォームURLを入手

以下のURLにメールアドレスを登録してください。登録されたメールアドレスに申請情報登録フォームURLを送信します。

URL https://dec.nagoya-u.ac.jp/inquiry/f_2023touroku

- ②申請情報の登録

送信された申請情報登録フォームの申請情報登録フォームに必要事項を登録してください。

・上記②までを登録期間内に実施してください。なお、登録期間を過ぎた場合は、いかなる事情があっても受付はいたしませんのでご留意願います。

留意事項

- ・申請情報登録フォームは、申請番号の発行を受けるために**必須の手続き**となりますので、必ず期日までに行ってください。
- ・申請情報登録時に発行される申請番号は、以降の審査の手続きに使用しますので、

必ず控えておくようにしてください。また、申請番号は、様式3（指導教員等評価書）作成者と共有してください。

・申請情報登録手続きについては、学内申請者の方（名古屋大学に在学し、名古屋大学IDが発行されている者）、学外申請者の方（学内申請者以外の者）は同じ手続きになります。

(2) 申請書の提出について

~~提出期間 2022年2月7日（月）～2022年2月15日（火）13時~~
※締切りを延長しました。

提出期間 2022年2月7日（月）～2022年2月21日（月）13時

提出書類一覧及び提出方法：

提出書類名	提出者	提出ファイル名	提出方法		備考
			学内申請者	学外申請者	
様式1： 名古屋大学 融合フロン ティアフェ ローシップ 申請書	申請者	form1(申 請番号)	NUCTを使用して提 出	NUSSにより提出 ※提出先URLは電子メ ールを確認のこと	様式1、2を1 つのPDFファ イルにして提 出
様式2： 研究概要等					
様式3： 指導教員等 評価書	評価書 作成者	form3(申 請番号)	様式3提出フォーム： https://dec.nagoya-u.ac.jp/inquiry/fellowship_form3 を使 用して提出		PDFファイルに して提出
申請概要説 明動画	申請者	mov(申 請 番号)	NUCTにより提出	NUSSにより提出 ※提出先URLは電子メ ールを確認のこと	動画作成方法 は別紙を参照 のこと

<様式1、2>

提出方法：・申請者本人から、以下の方法により提出してください。

・提出にあたり、様式1、2を1つのPDFファイルにして、**ファイル名はform1(申請番号)**にしてください。

- ① 学内申請者（名古屋大学に在学し、名古屋大学IDが発行されている者）

[申請書類を NUCT（Nagoya University Collaboration and course Tools）を使用して提出](#)

・(1)の登録を行った者については、NUCT 上に申請分野のサイト情報が表示されます。申請者は、博士課程教育推進機構 HP から申請書類のダウンロードを行い、申請書類を作成し、NUCT の申請分野サイトの課題提出機能を使用し、上記提出期間内に提出をしてください。

- ② 学外申請者（学内申請者以外の者）

[申請書類を NUSS へ提出](#)

・(1)の登録を行った後に、博士課程教育推進機構 HP から申請書類のダウンロードを行い、申請書類を作成し、NUSS に上記提出期間内に提出をしてください。

（受付時間は、本学のサーバの受信時間で判断しますのでご留意願います）

提出先 URL は、(1)で登録した電子メールアドレス宛に通知します。

<様式3>

提出方法：・評価書作成者から、直接、以下の方法により提出してください。
・提出にあたり、様式3をファイルにして、ファイル名を form3(申請番号)にしてください。

様式3 提出フォーム：

https://dec.nagoya-u.ac.jp/inquiry/fellowship_form3を使用して提出

・博士課程教育推進機構 HP から申請書類のダウンロードを行い、様式3 提出フォームに必要事項を記入の上、様式3を上記提出期間内にアップロードしてください。

・評価書提出には申請番号が必要になります。申請番号は申請者に確認してください。

<申請概要説明動画>

内 容：以下①から③を含む形で説明用動画（3分以内、30Mb 以内、スライド5枚以内(表紙1ページ含む)）を作成してください。

①研究内容と研究計画の概要

（自分の研究の価値や位置づけ、実際に行う内容、3年間の計画）

②研究の発展を促すための取組（例：共同研究や融合研究などの活動）

③キャリアの目標に近づくための活動

提出方法：・申請者から、以下の方法により提出してください。

- ・提出にあたり、mp4形式で、以下の形式でファイル名をmov(申請番号)にしてください。
- ・作成する動画の内容、形式、動画作成方法等は別紙「動画作成について」を参照してください。
- ・「申請概要説明動画」は、面接審査において、「申請者からの説明」としても使用します。
- ・作成した動画は、学内申請者は、NUCTの申請分野サイトの課題提出機能を使用し、上記提出期間内に提出をしてください。学外申請者については、事務局からのメールにより確認してください。

9. 選考及び結果について

(1) 選考

第1次審査（書類・動画選考）及び第2次審査（面接選考）を実施いたします。ただし、第1次審査通過者のうち、第1次審査の結果により、第2次審査を免除し、第1次審査をもって合格とする場合があります。第2次審査（面接選考）は、第1次審査（書類・動画選考）通過者のうち、第2次審査免除者を除き実施致します。

また、審査は、初めに申請のあった第1志望の分野により実施しますが、応募状況により、第2志望以降の分野で審査を行う場合があります。

留意事項

- ・第2次審査（面接選考）を以下の日時で実施いたします。なお、日時指定に関する希望は一切応じることができません。
- ・面接対象者への通知は、「(3)結果通知」の「○通知方法」と同じ方法で行います。

面接選考日

分野	候補日
アジア未来創造分野	3月24日(木) 又は 25日(金)
情報・AI分野	3月23日(水) 又は 24日(木)
量子科学分野	3月28日(月)
マテリアル分野	3月23日(水) 又は 25日(金)

- ・複数の候補日がある分野については、面接実施日が決まり次第、博士課程教育推

進機構 HP で案内します。

- ・面接選考対象者は面接日の 2-3 日程度前に通知いたします。
- ・オンラインにより実施します。

(2) 審査方針

評価項目は、以下のとおりとし、個々の要素を踏まえて評価を行います。また、各分野の審査基準は別表 1 をご参照ください。

- ① 海外を含む有力な研究機関・企業等との共同研究、あるいは融合研究領域における挑戦的研究能力があること
- ② 将来を担う優れた博士人材となることが十分に期待できること。
- ③ 研究方法が独創的で、標準修業年限内での研究課題設定が適切になされていること。
- ④ 博士号取得後のキャリアと標準修業年限内で培う能力等を明確に自覚していること。
- ⑤ 各分野において設定する基準

(3) 結果通知

合格者に対して、以下のとおり通知を行います。

結果通知日

4月14日（木）

○通知方法

申請時に登録した電子メールアドレス宛に通知。

10. フェローの義務

フェローとして、奨励金を受給する者には、以下の義務が課されます。

- (1) 当該年度の研究に関する報告書及び次年度以降の研究活動計画書を提出。
- (2) 指導教員・メンターもしくはキャリア相談教員等との面談。
- (3) 日本学術振興会特別研究員事業への応募。
- (4) 毎年度の活動の評価を受けること。
- (5) 対象分野が認定する講義、研修、セミナー等の参加。別表 1 を参照。
- (6) 本学が指定する公的資金の使用に係る研修、研究倫理教育の受講。
- (7) 義務の実施状況について、指定されたシステムへのデータ登録。

- (8) フェローシップ期間終了後の調査への協力。
- (9) その他本学が必要と定めた事項。

11. 奨励金支給の停止

次のいずれかに該当する場合は、奨励金の支給を停止します。

- (1) 退学、除籍又は転学したとき。
- (2) 停学の処分を受けたとき。
- (3) 学業成績が不良となったとき。
- (4) 年度毎の研究成果の報告を怠ったとき。
- (5) 研究奨励金を必要としない理由が生じたとき。
- (6) 申請資格の(3)の①～④に該当したとき。
- (7) (1)～(6)のほか、フェローとして適当でない事実があったとき。

12. 奨励金の返還

支給中断、停止の事由により、受給資格がないにもかかわらず支給を受けた奨励金があるときは、その支給を受けた金額のうち受給資格がないものとされる部分の金額を本学に返還することになります。

13. フェローシップ期間終了後の調査への協力義務

当制度は、文部科学省「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」の補助の下に実施するため、終了時から10年程度、就職等の現況調査等を行う可能性がありますのでご承知ください。

フェローシップ期間終了後であっても連絡することがあるため、連絡先の住所、就職先、Eメールアドレス等が変更になった場合は、本学担当先（博士課程教育推進機構）へ必ずご連絡願います。

以上

「融合フロンティアフェローシップ」に関する問合せ先
博士課程教育推進機構
教育推進部教育企画課

問合せ専用フォーム

<https://dec.nagoya-u.ac.jp/inquiry/top>



	アジア未来創造分野	情報・AI分野	量子科学分野	マテリアル分野	
フェローシップ事業の目的・育成する研究者像	アジア諸国との共生を志向し、SDGsへの貢献と豊かで活力ある社会の構築を目指す学生に対して、融合領域の研究教育に関わる機会やプログラムを提供することにより、国内外との共同研究を通じ、未来の知の継続的創出や社会実装を担うグローバル博士人材を育成する。	モビリティ分野、創薬・医療・個別化予防、基礎医学など医学分野を中心に、人文社会学、理学、数理学、農学など広い分野を支え、牽引し、発展させる、未来の知の継続的創出や社会実装を担い、グローバルに活躍する情報・AI博士人材を育てることを目的とする。	量子科学分野の対象となる数学・理学などの量子基礎学から、半導体等を用いた量子デバイス応用までの幅広い研究階層に対し、階層間を融合した学術研究を切り拓き、グローバルに活躍する卓越した博士人材を育てることを目的とする。	我が国のマテリアル革新の原動力となる人材育成を目的とする。 電気電子・機械・情報・エネルギー・生物・医療・農業などの多分野とマテリアル科学の融合領域を開拓し、基礎学から応用に至る上流から下流までを俯瞰的に捉えて革新的プロダクトを生み出すために必要な研究力を有して、自身のキャリアを切り拓ける卓越した博士人材を育成する。	
審査基準	(1)海外を含む有力な研究機関・企業等との共同研究、あるいは融合研究領域における挑戦的研究能力があること (2)将来を担う優れた博士人材となることが十分に期待できること (3)研究方法が独創的で、標準修業年限内での研究課題設定が適切になされていること (4)博士号取得後のキャリアと標準修業年限内で培う能力等を明確に自覚していること	(5)情報・AI分野、モビリティ分野、創薬・医療・個別化予防、基礎医学など医学分野を中心に、人文社会学、理学、数理学、農学など広い分野において、情報・AI技術を利用する研究計画を立案し、研究を遂行する強い意志を有していること	(5)量子科学分野の対象となる基礎学から応用研究まで幅広い階層を融合した学術研究に参画する意思を持つこと。上記へつながる取り組みやプログラム受講等の経験があればより好ましい	(5)マテリアル革新を志す融合研究の実施に向けた強い意志を持ち、研究の社会的意義を明確化できること	
全分野共通の講義・研修・セミナー等【必修】	【1】企業関係者等外部の関係者を招いた大学主催の研究発表会(D1、D2の内一回以上参加)				
対象分野の講義・研修・セミナー等【必修】		【1】研究科や卓越大学院プログラムが用意するプログラミング科目	【1】部局横断的な共同研究を創出する大学主催の研究発表会		
対象分野が認定する講義・研修・セミナー等【選択必修】(フェローポイント*:FP)	アジア未来創造	情報・AI分野	量子科学	マテリアル	
	※以下より各自選択して、大学院在学中(フェロー終了まで)で30FP以上最大FP以上の受講が必要。	※以下より各自選択して、大学院在学中(フェロー終了まで)で30FP以上最大FP以上の受講が必要。	※以下より各自選択して、大学院在学中(フェロー終了まで)で30FP以上最大FP以上の受講が必要。	※以下より各自選択して、大学院在学中(フェロー終了まで)で30FP以上最大FP以上の受講が必要。	
	最大FP:最大FP以上のコマ数を受講しても良いが、合計FPとしては最大FP数しかカウントはされないことを意味する。	最大FP:最大FP以上のコマ数を受講しても良いが、合計FPとしては最大FP数しかカウントはされないことを意味する。	最大FP:最大FP以上のコマ数を受講しても良いが、合計FPとしては最大FP数しかカウントはされないことを意味する。	最大FP:最大FP以上のコマ数を受講しても良いが、合計FPとしては最大FP数しかカウントはされないことを意味する。	
	セミナー等	【1】トランスファラブルスキル・語学研修・キャリアパスセミナー・異分野研究セミナー・院生企画セミナー等の受講	【1】トランスファラブルスキル・語学研修・キャリアパスセミナー・異分野研究セミナー・院生企画セミナー等の受講	【1】トランスファラブルスキル・語学研修・キャリアパスセミナー・異分野研究セミナー・院生企画セミナー等の受講	【1】トランスファラブルスキル・語学研修・キャリアパスセミナー・異分野研究セミナー・院生企画セミナー等の受講
	6FP	8FP	6FP	9FP	
	インターンシップ	【2】インターンシップなど(国内外の企業・国際機関・研究機関等でのインターンシップなど)	【2】インターンシップなど(国内外の企業・国際機関・研究機関等でのインターンシップなど)	【2】インターンシップなど(国内外の企業・国際機関・研究機関等でのインターンシップなど)	【2】インターンシップなど(国内外の企業・国際機関・研究機関等でのインターンシップなど)
	24FP	24FP	24FP	24FP	
	海外留学等	【3】海外研究渡航(研修・短期留学)	【3】海外研究渡航(研修・短期留学)	【3】海外研究渡航(研修・短期留学)	【3】海外研究渡航(研修・短期留学)
8FP	8FP	12FP	12FP		
研究発表・賞等	【4】国際会議・国際学会発表	【4】国際会議・国際学会発表 国際誌論文発表	【4】国際会議・国際学会発表	【4】国際会議・国際学会発表 研究賞の獲得	
6FP	6FP	6FP	6FP		
学生チーム経験	【5】学生チーム企画(院生企画セミナー企画、起業、ビジネスコンテスト出場など)	【5】学生チーム企画(院生企画セミナー企画、起業、ビジネスコンテスト出場など)	【5】学生チーム企画(院生企画セミナー企画、起業、ビジネスコンテスト出場など)	【5】学生チーム企画(院生企画セミナー企画、起業、ビジネスコンテスト出場など)	
8FP	8FP	8FP	8FP		
共同研究・融合研究等	【6】共同研究・融合研究等の実施(研究費の共同申請)、産学協同講座や指定共同研究等への参画(指導教員と相談し実施)	【6】共同研究・融合研究等の実施(研究費の共同申請)、産学協同講座や指定共同研究等への参画(指導教員と相談し実施)	【6】共同研究・融合研究等の実施(研究費の共同申請)、産学協同講座や指定共同研究等への参画(指導教員と相談し実施)	【6】共同研究・融合研究等の実施(研究費の共同申請)、産学協同講座や指定共同研究等への参画(指導教員と相談し実施)	
24FP	24FP	24FP	24FP		
短期ワークショップ(リトリート研修等)参加	【7】社会課題発見・異分野融合研修等の短期ワークショップに参加	【7】社会課題発見・異分野融合研修等の短期ワークショップに参加	【7】社会課題発見・異分野融合研修等の短期ワークショップに参加	【7】社会課題発見・異分野融合研修等の短期ワークショップに参加	
8FP	8FP	12FP	12FP		

*各研究科・専攻・卓越大学院・リーディングプログラム等は、大学院生対象に各種の企画を用意しています。融合フロンティアフェローシップ実施委員会は、「対象分野が認定する講義・研修・セミナー等」について認定したものに、大学フェローシップのフェローポイント(FP)を付与します。各フェローは、所属する領域の専門分科会の指示に従って、フェローシップ期間中に30FP以上を取得します。

・詳細につきましては、今後博士課程教育推進機構HP等で案内をしていく予定です。

【別表2】 名古屋大学融合フロンティアフェローシップ申請可能分野一覧表（研究科・専攻）

* 応募可能な申請分野を確認してください。

区分	研究科	専攻	アジア未来創造 分野 26名	情報・AI分野 26名	量子分野 12名	マテリアル分野 13名
博士 後期 課程	人文学研究科	人文学専攻	○	○		
	教育発達科学研究科	教育科学専攻	○	○		
		心理発達科学専攻	○	○		
	法学研究科	総合法政専攻	○	○		
		実務法曹養成専攻				
	経済学研究科	社会経済システム専攻	○	○		
		産業経営システム専攻	○	○		
	情報学研究科	数理情報学専攻	○	○	○	
		複雑系科学専攻	○	○	○	○
		社会情報学専攻	○	○		
		心理・認知科学専攻	○	○		
		情報システム学専攻	○	○		
	理学研究科	知能システム学専攻	○	○		○
		素粒子宇宙物理学専攻		○	○	○
		物質理学専攻		○	○	○
		生命理学専攻		○		○
	工学研究科	名古屋大学・エディンバラ大学国際連 携理学専攻		○	○	○
		有機・高分子化学専攻			○	○
		応用物質化学専攻			○	○
		生命分子工学専攻		○	○	○
		応用物理学専攻		○	○	○
		物質科学専攻		○	○	○
		材料デザイン工学専攻		○		○
		物質プロセス工学専攻		○	○	○
		化学システム工学専攻		○		○
		電気工学専攻		○	○	○
		電子工学専攻		○	○	○
		情報・通信工学専攻		○	○	○
		機械システム工学専攻		○	○	○
		マイクロ・ナノ機械理工学専攻		○	○	○
		航空宇宙工学専攻		○	○	○
		エネルギー理工学専攻		○	○	○
	総合エネルギー工学専攻		○	○	○	
	土木工学専攻	○	○		○	
	生命農学研究科	森林・環境資源科学専攻	○	○		○
		植物生産科学専攻	○	○		○
		動物科学専攻	○	○		○
		応用生命科学専攻	○	○		○
		名古屋大学・カセサート大学国際連 携生命農学専攻	○			○
	名古屋大学・西オーストラリア大学国 際連携生命農学専攻	○			○	
	国際開発研究科	国際開発協力専攻	○	○		
	多元数理科学研究科	多元数理科学専攻		○	○	
	環境学研究科	地球環境科学専攻	○	○		○
		都市環境学専攻	○	○		○
		社会環境学専攻	○	○		
	医学系研究科	総合保健学専攻	○	○		
	創薬科学研究科	基盤創薬学専攻		○		○
医学 博士 課程	医学系研究科	総合医学専攻	○	○		
		名古屋大学・アデレード大学国際連 携総合医学専攻	○	○		
		名古屋大学・ルンド大学国際連携総 合医学専攻	○	○		
		名古屋大学・フライブルク大学国際連 携総合医学専攻	○	○		